

氏名	猪 木 篤 弘
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 乙 第 2778 号
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	気管支喘息におけるカンジダ抗原吸入誘発試験の臨床的検討 —遅延型気道反応を中心に—
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

成人にみられる気管支喘息はしばしば難治化し、カンジダが原因抗原として重要と考えられている。今回難治性喘息の病態解明の目的でカンジダ抗原による皮膚反応陽性の気管支喘息61例にカンジダ抗原吸入誘発試験を行った。抗原吸入誘発後にピークフロー(PEF)が20%以上低下すれば気道反応陽性とした。抗原吸入後1時間以内の気道反応を即時型気道反応(IAR)、3時間から12時間以内を遅発型気道反応(LAR)、24時間以降の気道反応を遅延型気道反応(DeAR)とした。カンジダ抗原吸入誘発試験において何らかの気道反応が陽性であったのは61例中26例、この内11例にDeARを認めた(DeAR群)。DeAR群11例中7例は難治性喘息症例であり、さらにDeAR群では他群に比較しカンジダ抗原に対するリンパ球幼若化反応が亢進していた。以上よりカンジダ抗原によるDeARは喘息の難治化と密接な関係がありその機序としていわゆる細胞反応型アレルギーの関与が強く示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、難治性気管支喘息の病態を臨床的に研究したものである。カンジダ皮膚反応陽性例に、抗原吸入誘発試験により、即時型および遅発型の他に24時間以降に出現する遅延型の気道反応を認め、この型の気道反応と重症難治化との関連を明らかにした。これは、難治化の要因にリンパ球の関与を示唆する重要な知見であり、価値ある業績であると認め

る。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。